

公述人 NO.4 伊東律子

未来への選択

この道路の必要性や、交通量予測、アセスについては、標さんが詳しくお話してくださいました。暮らしやすさ・ご近所関係を50年という歳月をかけて築いてきた2号団地のお二人からもお話がありました。私は、普通のおばさんですので、ごく大ざっぱな話をさせていただきます。

この338を通して気がついた大きな問題は、まず、民主主義の形骸化ということです。もう一つは、今こそ、未来のために価値観を変えるチャンスではないか、ということです。

ブータンの国民総幸福量のことはみなさんご存知と思います。幸福感は、経済的な豊かさや、物がたくさんあるかどうか、車にとって便利な、ご立派な4車線の道路があるかどうかにかかっているのではありません。この日本では、東日本大震災の犠牲者、行方不明、死亡者を合わせたよりも約1万人多い人々が、毎年、自殺を余儀なくされています。日本の国民総幸福量は、どのくらいなのでしょうかねえ？昨年、友人が開いた展示会で、日本、アメリカ、韓国の高校生への自己認知度のアンケート結果が比較されていました。日本では自分を否定する子どもたちが多かったです。とても悲しいことです。どうしてこんな国になってしまったのか、歯がゆい想いです。

今、私の家の外壁に、「原発いらない、338もいらない、欲しいのはみんなの笑顔」というポスターを貼っています。下手糞な手書きですが、満面の笑みのお日様もつけて・・・

この道路をつくれば、200世帯以上もの方々が追い出されます。「国土交通大臣賞を頂いた」と、説明会で都の職員が自慢していた環境施設帯だけのために引越しを余儀なくされる高齢者の住民もいます。『そんなものいらないから、その分だけでも追い出してくれるな、高齢者には酷だ』という私の意見に対して、「生活再建」に協力します、と的外れな回答をしていましたが、その「生活再建」にしても、測量説明会では、「補償」、お金のことだけでした。住み慣れた土地を離れることの過酷さをどうして理解しないのでしょうか？

雑木林で散策やゲートゴルフ、幻燈会、プレイパークを楽しまれていた方々は、これからどうすればいいのでしょうか？「影響は少ないと考える」って、一体、どこからそんな発想が出てくるのか、全く理解できません。直接聞いて見れば早いのに、と思いますけどね。アンケートで何をしているかは聴かれましたが、困るかどうかは聞かれていません。今言っておきます。「困ります。雑木林と玉川上水には手をつけないでください」

私は338ができると沿道に住むことになります。道路に挟まれた三角地帯です。環境の悪化は避けられません。環境基準値以下と都はいいますが、測定地点の選定、遮音壁をつけ、速度も50キロと仮定しての予測、夜間早朝の救急車のサイレンやダンプなどの平常で無い音は除外、測定方法が確立されていないからとの理由で計っていないPM2.5、など、問題が多すぎます。

個人的には、自由に入出入りしている飼い猫の交通事故、それと、これからの用途変更のために、固定資産税が上がるのが一番頭が痛いです。収入がほとんどない状態で、預金を取り崩して払い続けることができなければ、私もおいおい、この住みやすかった土地を離れなければならないでしょう。せっかく慣れてきたところなのに、また一からやり直しですか？そして、ここに、大型店舗やマンションが立ち並ぶ味気ない町並みを残していくことが、私にはとても耐えられません。

服部圭郎氏の『道路整備工事の大罪』をお読みにになりましたか？田中角栄の道路整備のおかげで過疎化が加速されたこと、賑やかな商店街にするには、車が通れないようにするか、通りづらい道にすることと書かれています。目からうろこでした。東京には公共交通も充実しているし、道路もありすぎるくらいだそうです。ぜひ、ご一読下さい。

元気の商店街の一例として大山銀座も挙げられていました。大山銀座には私も年に何度か行く機会があります。アーケードがあり、車は通れません。道行く人も、いいお店もたくさん。いつも賑やかで何か買いたくなる街です。おとしでしたか、踏み切りでおじさんが自転車でこけました。4、5人がさっと駆け寄りました。脊椎管狭窄症になってから小走りができなくなった私は、ゆっくりと戻って、下りた遮断機を上げ、『慌てないで、まだ大丈夫だから』と電車の見張り役をしました。おじさんはちょっとビッコを引いていましたが、全員が踏み切りから出てほっとしました。同時に『大山銀座』って、賑やかなだけでなく、人に優しくできる所でもあるんだなあと再認識しました。

この338はどうですか？年寄りを冷たく追い出し、子どもたちの遊び場を奪い、心安らぐ緑を切り、沿道に汚染と騒音を撒き散らし、それらを犠牲にしてまで造る意義について、住民はまったく納得していません。説明会での住民の質問・意見にたいして、都は納得できる回答はひとつとしてできませんでした。当然、住民は怒り・失望・不安・不信を抱えています。

「100年先を考えろ」という私の意見に対して、「50年先を考えています」と見解書に書かれていました。「ったく！！」

都の説明会のパンフレット、大枚かけて作ったのでしょけれど、デメリットについては書かれていませんでした。環境影響評価書案でも「基準値以下」「影響は低いと考えられる」の羅列でした。メリットについては綺羅星の如く、屁理屈を並べていましたが、たとえば旅行時間。府中病院への緊急車両が3分短縮されるとか。でも、デイサービスをされている方が、府中病院の緊急外来でいつも2時間待たされる。3分短縮なんて何の意味もないとおっしゃっていました。現実を見ないで、ただ並べているだけ。住民にはメリットとはとても思えません。他も同様です。

「都市計画」、ドイツでは、公園から公園へ高齢者が散歩するのに、緑の下の道を歩いていけるように、ということだと新聞で読んで、日本との発想の違いにビックリしたことがあります。もちろん車のびゅんびゅん通る道の脇の環境施設帯ではないです。人が歩くための道です。また、住宅街を中心に、商店街はその外側、車のための道路はそのまた外側に配置するという図も見たことがあります。暮らし、そこに住む人々を一番に考えての町並みです。

みんながニコニコと暮らせるように。それを一番に考えてください。法律も、規則も、基準値とやらも、みんなそのためにあるものです。都の回答は本末転倒というものです。

今がチャンス。100年後を見据えて、この道路を造るべきか否か、貴重な緑を残すべきか否か、高齢者に優しさを示すか否か、人間を大事にするのかそれとも車を大事にするのか、じっくりと時間をかけて検討していただきたい。

私が上鈴木西地区338道路を考える会に入会したのは、母が亡くなって、まあ遺志を継いだというか・・・母が元気で活躍していた頃、私は「公がやるって言ったら、いくら反対しても無駄だよ」と言っておりました。自分が関わってみて、若いお母さんたちの声を聴き、「あきらめちゃあいけないな。私には未来の世代への責任があるんだから・・・」と思い直しました。それは、年をとった、経験を重ねたということもありますが、自分が難病を患っていて、そう先は長くないと感じているからでもありま

す。生きているうちに、やれるだけのことはやっておかないと、と思っています。正直しんどいんですけどね。

小平市で行われたワークショップにも参加しました。総勢31名の出した結論は、詳細すぎるかもしれませんが、是非心にとめてください。ちなみに一日目私たちのグループの伝えたいこと・大切なことは、

- 1、現在の計画にメリットは何もない。中止してほしい
- 2、地域住民の声を聞いてとりいれてほしい
- 3、道路を造るために追い出される人たちが心配
- 4、玉川上水の緑が分断され、中央公園横の雑木林が失われる
- 5、大気汚染や騒音で住環境が悪化する。
- 6、府中街道を改良する

でした。

先月26日には議員懇談会に参加。都の説明会に不満を持たれた方が、ワークショップのことを知らずに「市としても何か行動を起こしてほしい」と要望されていました。市報の周知も当てになりません。今日の13名というのは少ないと思われるかもしれませんが、現実には周知が足りないのです。参加したいと思っても平日では、現役の方は、参加できないでしょうし・・・堅い席は苦手と思われるかたも多いと思います。私たち13名以外にもたくさんの方が338には問題が多すぎると思っていることをお含み置きください。

31日には、環境影響評価審議会を傍聴させていただきました。住民との温度差の違いにひどく疲れました。帰り道でビッグイシューを買い求めたら、飴がついてきて、「嬉しい!」っていったら、「気持ちだから」って。疲れがだいぶ取れました。

審議員の方から、住民からの意見が多いことを配慮してくださったのでしょうか。「ていねいな説明を」との意見が出されましたが、私たちは「ていねいな説明」を求めているのではなく、納得できる答えを求めているのです。毎回、意図的かどうかはわかりませんが、はぐらかすようなピントはずれの繰り返しの答えに、先ほどもいいましたように、不満・いきどおり・行政への不信でいっぱいです。都の職員の方がお答えになっている姿は「機械人間?」「鉄面皮?」に見えました。どこが民主主義?住民の意見に対して、「われわれの道路は最適だと考えています」。その「われわれ」には、住民が全く入っていません。仕事熱心ではあるのでしょうか。「基準値というものがあるからわれわれ一生懸命下げるよう努力しました」。はぁ!!実際の騒音なりを下げてくださいのならば嬉しい限りですが、予測値を下げてもらっては困ります。発想が逆ではないですか?どの位迷惑なものかを最大限に想定していただかなくては・・・

環境影響評価とはそういうものではないのですか?それとも「住民には説明しました」「ご意見をお聞きしました」「調査しました」「基準値以下でした」という形式を踏んだという言い訳のためにあるのでしょうか?

説明会も環境影響評価も単なる形式的な通過地点だと評されている方がたくさんいます。

「いやいや、そんなことはありません。民主主義です。ちゃんと、住民の声にお答えします」と言うのなら、ぜひ、環境影響評価をやり直してください。みなさんが血の通った人間であることを期待して、わたしの公述を終わらせたいと思います。ご清聴ありがとうございました。